

第十回 博多献上道中

博多献上道中

平成28年10月22日(土)

17時20分川端商店街

18時20分JR博多駅前広場→御供所地区

※雨天の場合 18時川端商店街



主 催：博多献上道中実行委員会

共 催：博多織工業組合・西日本新聞社・TNCテレビ西日本・日本イベントプロデュース協会九州本部

後 援：福岡市・福岡市文化芸術振興財団・博多まちづくり推進協議会

特別協賛：JR九州

協 力：東長寺・承天禪寺・上川端商店街振興組合・川端中央商店街振興組合・杵弥会

福岡県美容生活衛生同業組合・福岡美容専門学校・もち吉・石村萬盛堂・いろは和装学院

博多人力屋・はかた伝統工芸館・博多券番

博多をぐるっと、秋めぐり。
博多秋博
AKIHAKU
秋の博多

photo Hiromasa Otsuka

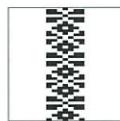
博多織と博多献上道中

鎌倉時代、1235年(嘉禎元年)33歳の満田弥三右衛門は、博多綱首(はかたごうしゅ)謝太郎国明の船で、34歳の円爾(博多・承天寺の開山、勅謚・聖一国師)と共に中国・宋の明州へ向け博多の津を出港します。宋に六年間滞在し、織物・朱・箔・そうめん・じゃこう丸の五つの製法を修得し、1241年(仁治2年)弥三右衛門は、円爾と博多の津に帰ります。博多に戻った弥三右衛門は、これらの製法を博多の人々に伝えましたが、その中の織の技法だけは家伝とし、広東織と称して独特的の技術を加えながら代々伝えています。さらにその約250年後、弥三右衛門の子孫、彦三郎が中国・廣東へ渡り、織物の技法を研究して帰ります。その後、竹若藤兵衛に技法を伝え、共に改良工夫して、琥珀織のように地質厚く、浮線紋もあり柳条もあるという織物を作り出しました。そしてその織物が作られたこの土地、博多の地名をとて、「覇家台織」(はかたおり)すなわち博多織と名づけられたと伝えられています。

1600年(慶長五年)、黒田長政は筑前を領有するようになってからは、徳川幕府への献上品として博多織を選び、毎年三月に帶地十筋と生絹三疋を献上します。この品々を総称して定格献上と名づけられたことから、「博多献上」帯が誕生しました。その紋様は、真言宗の法器、独鉢(どっこ)と華皿(はなざら)を図案化しており、以来変わらず今日に伝えられています。



独鉢



華皿



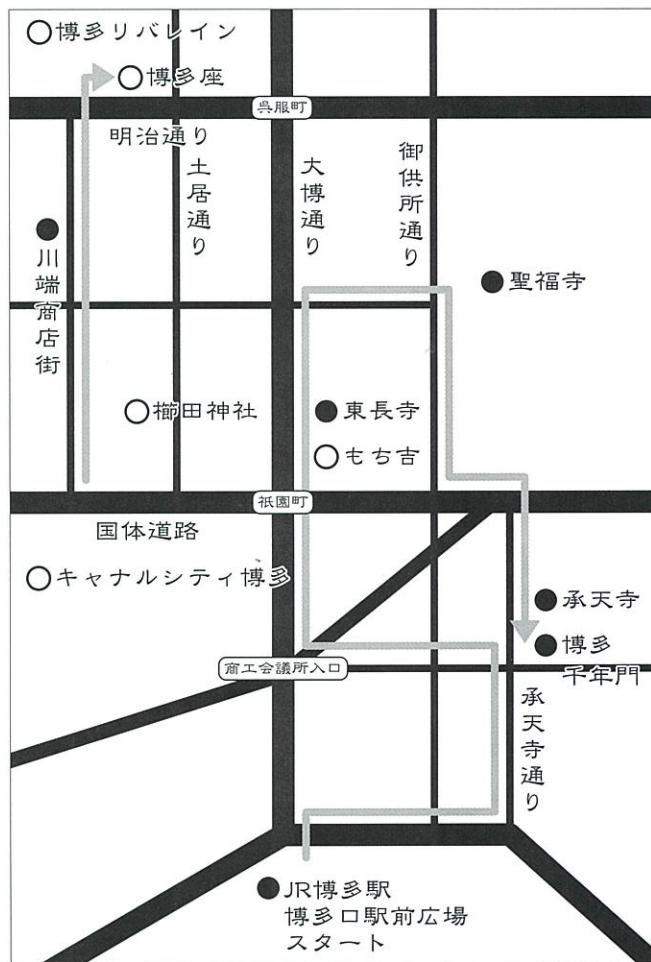
両子持縞(孝行縞)



中子持縞

博多織は、満田弥三右衛門の伝承と円爾(勅謚・聖一国師)の教え、黒田藩の保護政策により、「博多献上」というスーパー・ブランドを確立しておりますが、近年このような歴史物語を知る人も少なくなりつつあります。「博多献上道中」が行われることにより、世界に誇る伝統工芸品「博多織」を再認識してもらい、「キモノの似合う博多」の秋の恒例行事の祭りになることを願っております。

博多献上道中コース



※コースは当日の状況により変更する場合があります。

第10回博多献上道中協賛企業

はかた伝統工芸館 HAKATA TRADITIONAL CRAFT AND DESIGN MUSEUM

博多帯、オリジナル小物
HAKATA JAPAN
博多リバーライン1F TEL:092-263-1112

博多川端
博多の心に出逢う街
飾り山笠と川端ぜんざい
上川端商店街

承天禅寺



知って歩けば、博多はもっと奥深い。

「博多町家」
ふるさと館
HAKATA MACHIYA FOLK MUSEUM

博多織工芸館
福岡市西区小戸3-51-22 TEL:(092)8837077
工房見学 販売 オリジナル商品承ります。

手描き友禅きもの
あきら友禅
<http://www.akira-yuzen.com/>

染め・シミ抜き・仕立て専門家の店
めゆい
着物職人の店
福岡市博多区御供所町3-17 電話 (092) 260-7903

西村織物株式会社

博多莫匠
龙衛門
福岡市中央区天神2丁目7-22

博多織の千年工房

ライフスタイルに合わせたコースが選べる着物の着かた教室
多奈ゑりきもの教室
info@tanaeri.net http://tanaeri.net/

『博多献上道中参加者募集』詳しくはホームページをご覧下さい。

博多献上道中ホームページ <http://hakatakenjyou.wix.com/hakata>

博多献上帯を締めて、一緒に歩きましょう! どなたでも参加できます。途中参加も可能です。

✉ hakatakenjyou@gmail.com 博多献上道中実行委員会 ☎ 080-3988-3201